

2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社 北川鉄工所 上場取引所 東
 コード番号 6317 URL <https://www.kiw.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)北川 祐治
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員 経営管理本部長 (氏名)宇田 育造 (TEL)0847(45)4560
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	31,898	10.5	2,386	△14.4	2,584	△18.0	1,596	△26.3
2019年3月期第2四半期	28,868	12.9	2,788	25.2	3,150	22.0	2,167	29.9

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 1,400百万円 (△18.0%) 2019年3月期第2四半期 1,707百万円 (△6.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	170.48	—
2019年3月期第2四半期	231.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	72,266	38,597	51.6
2019年3月期	73,453	37,629	49.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 37,298百万円 2019年3月期 36,273百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	45.00	—	45.00	90.00
2020年3月期	—	50.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,000	1.1	4,000	△26.8	4,500	△24.2	3,000	△22.2	320.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	9,650,803株	2019年3月期	9,650,803株
2020年3月期2Q	287,059株	2019年3月期	286,360株
2020年3月期2Q	9,364,200株	2019年3月期2Q	9,365,568株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)におけるわが国の経済は、これまで堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に回復基調で推移してまいりましたが、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題などによって、世界的に景気後退の懸念がさらに強まっており、国内においても設備投資が慎重になるなどその影響が広がりつつあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、各事業分野において、生産性の向上や積極的な営業展開、経費削減など、収益力の強化に取り組み、事業を推進してまいりましたが、しかしながら、キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー及びキタガワ グローバル ハンド カンパニーでは、厳しい市場環境下で事業を行うこととなりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高はグループ全体で、31,898百万円(前年同四半期比 10.5%増)、営業利益は 2,386百万円(前年同四半期比 14.4%減)、経常利益は 2,584百万円(前年同四半期比 18.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1,596百万円(前年同四半期比 26.3%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」の「II 当第2四半期連結累計期間 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照下さい。

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー (金属素形材事業)

自動車関連業界におきましては、米中貿易摩擦の影響などにより、先進国、新興国共に自動車需要が減速しております。業界としてはハイブリッド化、電動化へのシフトが進んでおり、部品の軽量化や省パーツ化に向けた取り組みが行われております。農業関連業界におきましては、引き続き好調を維持、建設機械関連業界におきましては、大型建設機械の需要が減少傾向となっております。

このような状況のもと、当事業におきましては、国内外の生産拠点との連携強化を図り、収益力の強化に努めてまいりました。海外では、自動車メーカーが米中貿易摩擦の影響もあり中国からの生産移転をすすめており、それに伴う自動車部品の新規受注活動に注力してまいりました。国内では、当社の強みである素材開発から機械加工までの一貫生産や加工技術力を活かした新規受注活動に注力してまいりました。また、人員増強や鋳物材料の一部の値上がりなどによりコストが増加するなかで、コストに見合った価格への改定交渉、不良の低減や歩留り改善などによる生産効率の改善、外注品の一部内製化などによる調達コストの削減、福山工場加工ラインにおける自動車トランスミッション部品の安定的な生産及びライン増設を進めてまいりました。

これらの取り組みを進めることにより、売上高は前年同期を上回りましたが、利益面では国内における価格改定交渉の遅れや不良率の高止まりによって、厳しい状況で推移しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の当事業の売上高は 14,525百万円(前年同四半期比 2.7%増)、セグメント利益(営業利益)は 443百万円(前年同四半期比 43.8%減)となりました。

キタガワ サン テック カンパニー (産業機械事業)

国内の建設業界におきましては、2019年度の建設投資は前年度比で微増、2020年度は同水準で推移していくことが見込まれております。一方で、鉄筋工(建築)を中心に建設技術者が慢性的に不足しており、また業界全体で高力ボルトのひっ迫した需給動向が継続したことから、工期遅れやコスト増加の要因となりました。

このような状況のもと、当事業におきましては、お客様への対応力を強化すべく、顧客訪問の強化、サプライチェーンの再構築、そして業務効率改善に向けた取り組みを継続的に実施してまいりました。

これらの取り組みを進めた結果、プラント事業は、生産設備の更新需要が高く、メンテナンス関係の工事も活発であったことから好調に推移しました。荷役機械関連設備では、都市部の再開発向け大型クレーンと集合住宅向け小型クレーンに加え、ダム建設用クレーンの出荷もあり、売上を伸ばしました。自走式立体駐車場事業は、遊興施設や商業施設に付帯する大規模駐車場の工事が進捗したことなどにより、好調を持続しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の当事業の売上高は 12,005百万円(前年同四半期比 45.7%増)、セグメント利益(営業利益)は 1,641百万円(前年同四半期比 86.7%増)となりました。

キタガワ グローバル ハンド カンパニー (工作機器事業)

工作機械業界におきましては、米中貿易摩擦の長期化の影響により、国内外ともに製造業の設備投資は減少傾向となっております。また、自動車関連では中国を中心に売れ行きが鈍化しており、半導体関連では第5世代移动通信システムの需要などで2019年度中の回復が期待されていますが、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当事業におきましては、ロボット分野などの新たな市場領域に参入するためのチームの発足や、主力商品であるパワーチャックの高付加価値商品として開発したBRシリーズの市場投入など、積極的に営業活動を展開しました。また、海外展示会のEMO Hannover2019で新型NC円テーブルMK350、薄型2爪平行グリップを発表しました。10月にはMECT2019にも出展を予定しており、新商品開発への取り組みを更に加速させていきます。

これらの取り組みを進めてまいりましたが、国内市場では、設備投資の減少から工作機械メーカー向け、一般ユーザー向けともに低調に推移しました。また、海外市場では、中国、北米、欧州など全般的に低調であったことにより、引き続き厳しい状況で推移しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の当事業の売上高は 5,097百万円（前年同四半期比 17.7%減）、セグメント利益（営業利益）は 761百万円（前年同四半期比 46.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、売掛債権の減少などにより、前連結会計年度末に比べて 1,186百万円減少し、72,266百万円となりました。

負債は、仕入債務の減少などにより、前連結会計年度末に比べて 2,155百万円減少し、33,668百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があり、前連結会計年度末に比べて 968百万円増加し、38,597百万円となりました。純資産から非支配株主持分を差し引いた自己資本は 37,298百万円となり、自己資本比率は 51.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、3,566百万円の収入となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益 2,554百万円及び減価償却費 1,829百万円であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額 1,120百万円であります。前年同期比では、主に売上債権の減少額及びたな卸資産の減少額により 1,238百万円の収入増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,327百万円の支出となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出 2,285百万円であります。前年同期比では、主に有形固定資産の取得による支出の減少等により 22百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、264百万円の支出となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額 421百万円であります。前年同期比では、主に短期借入金の増加により 1,308百万円の支出減少となりました。これらにより当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ 958百万円増加し、8,467百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績見通しにつきましては、最近の業績の動向等を踏まえ、以下の通り2019年5月10日に公表しました連結業績予想を修正いたします。

	売上高	営業利益	経常利益	(単位：百万円) 親会社株主に帰属 する当期純利益
前回発表予想(A)	63,000	5,000	5,500	3,900
今回発表予想(B)	61,000	4,000	4,500	3,000
増減額(B-A)	△2,000	△1,000	△1,000	△900
増減率(%)	△3.2	△20.0	△18.2	△23.1
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	60,339	5,463	5,932	3,854

業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。その場合は、業績見込みの見直しを行い、その結果、業績予想の修正が必要と判断したときには速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,721	8,684
受取手形及び売掛金	12,399	12,223
電子記録債権	7,245	5,951
商品及び製品	3,704	3,627
仕掛品	4,451	3,790
原材料及び貯蔵品	2,189	2,292
その他	270	423
貸倒引当金	△18	△17
流動資産合計	37,962	36,976
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,709	6,563
機械装置及び運搬具（純額）	15,559	15,613
その他（純額）	6,363	6,319
有形固定資産合計	28,633	28,496
無形固定資産	503	469
投資その他の資産	6,354	6,324
固定資産合計	35,490	35,290
資産合計	73,453	72,266

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,956	5,130
電子記録債務	5,599	5,306
短期借入金	3,317	4,000
1年内返済予定の長期借入金	3,338	1,171
未払法人税等	1,125	820
賞与引当金	656	770
その他	4,989	3,843
流動負債合計	24,984	21,042
固定負債		
長期借入金	4,960	6,593
環境対策引当金	219	219
退職給付に係る負債	5,310	5,462
その他	349	350
固定負債合計	10,839	12,626
負債合計	35,823	33,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,640	8,640
資本剰余金	5,113	5,104
利益剰余金	21,861	23,036
自己株式	△611	△613
株主資本合計	35,003	36,167
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,433	1,300
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	1,206	1,135
退職給付に係る調整累計額	△1,369	△1,305
その他の包括利益累計額合計	1,270	1,130
非支配株主持分	1,355	1,299
純資産合計	37,629	38,597
負債純資産合計	73,453	72,266

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	28,868	31,898
売上原価	23,086	26,294
売上総利益	5,782	5,603
販売費及び一般管理費	2,994	3,216
営業利益	2,788	2,386
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	47	51
持分法による投資利益	78	57
為替差益	74	—
スクラップ売却益	116	82
その他	107	107
営業外収益合計	442	314
営業外費用		
支払利息	53	43
売上割引	17	14
為替差損	—	52
その他	8	6
営業外費用合計	79	117
経常利益	3,150	2,584
特別損失		
固定資産除却損	30	29
特別損失合計	30	29
税金等調整前四半期純利益	3,120	2,554
法人税、住民税及び事業税	861	873
法人税等調整額	58	81
法人税等合計	919	955
四半期純利益	2,200	1,599
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,167	1,596

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	2,200	1,599
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	128	△133
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	△625	△125
退職給付に係る調整額	5	63
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△4
その他の包括利益合計	△492	△199
四半期包括利益	1,707	1,400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,717	1,456
非支配株主に係る四半期包括利益	△9	△56

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,120	2,554
減価償却費	1,573	1,829
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△1
賞与引当金の増減額(△は減少)	89	113
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	215	201
受取利息及び受取配当金	△65	△68
支払利息	53	43
持分法による投資損益(△は益)	△78	△57
有形固定資産除却損	30	29
売上債権の増減額(△は増加)	△193	1,484
たな卸資産の増減額(△は増加)	△973	629
仕入債務の増減額(△は減少)	△26	△1,120
未払消費税等の増減額(△は減少)	57	232
その他	△715	△1,168
小計	3,086	4,703
利息及び配当金の受取額	72	76
利息の支払額	△54	△49
法人税等の支払額	△775	△1,164
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,328	3,566
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,383	△2,285
有形固定資産の売却による収入	8	10
投資有価証券の取得による支出	△4	△5
貸付金の回収による収入	45	34
その他	△16	△81
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,350	△2,327
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△80	725
長期借入れによる収入	—	1,996
長期借入金の返済による支出	△709	△2,503
自己株式の取得による支出	△2	△1
配当金の支払額	△721	△421
非支配株主からの払込みによる収入	9	—
その他	△67	△59
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,572	△264
現金及び現金同等物に係る換算差額	△30	△16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,624	958
現金及び現金同等物の期首残高	9,977	7,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,352	8,467

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	その他	合計
	キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー	キタガワ サン テック カンパニー	キタガワ グローバル ハンド カンパニー				
売上高							
外部顧客への売上高	14,145	8,237	6,193	28,576	292	28,868	
セグメント間の内部 売上高又は振替高	90	0	2	93	—	93	
計	14,236	8,238	6,195	28,669	292	28,962	
セグメント利益又は損失 (△)	789	879	1,421	3,090	30	3,120	

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、特機事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,090
「その他」の区分の利益	30
全社費用(注)	△332
四半期連結損益計算書の営業利益	2,788

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー	キタガワ サン テック カンパニー	キタガワ グローバル ハンド カンパニー	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,525	12,005	5,097	31,628	269	31,898
セグメント間の内部 売上高又は振替高	130	0	5	136	—	136
計	14,655	12,006	5,103	31,765	269	32,034
セグメント利益又は損失 (△)	443	1,641	761	2,846	△25	2,821

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、特機事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,846
「その他」の区分の利益	△25
全社費用(注)	△434
四半期連結損益計算書の営業利益	2,386

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「キタガワ グローバル ハンド カンパニー」に属していた特機事業を「その他」へ移管しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。